

吉良
好雄
(寒蘭愛好家)



今年もきれいな花を

細くまっすぐな茎に、控えめな花が5~10輪ほど連なる。寒蘭には、山野の気配を感じさせる凛とした美しさがある。

「毎年、初夏に新芽が出てくるのが楽しみで。青いのから白いのから桃色、いろんな種類があって、それをじーっと見るわけです」。土佐愛蘭会窪川支部の支部長を務める吉良好雄さんが笑顔で話す。栽培歴40年超のベテランだが、「満足いくように育てるのはなかなか難しい」と控えめだ。

27歳の時、自宅がある野地地区の知人に誘われて栽培を始めた。「当時は集落の人のがけっこう作ってたんですよ。縁側に鉢を並べてね」。しばらくは個人の趣味として楽しんでいたが、土佐愛蘭会に入ってからは鉢の数を増やし、展示会にも出品するようだ。数ある品種の中でも、緑色の花を咲かせる「太湖」がお気に入りだという。

本業は建築士。若い頃は大工としても現場に立ち、今も町内の施設工事に携わる。忙しい日々の合間に鉢をのぞき込み、生育を確かめる。肥料や消毒、植え替え、日光の管理など、栽培のコツを挙げればきりがないが、吉良さんは「水

やりが一番大事」と語る。水が少なければ育たず、多すぎれば根が腐る。気温や土の質に合わせ、夏は3~4日に1回、冬は週に1回ほどと頻度を変える。特に夏場は、水温が上がらないように日が沈んでから水を差す。

新芽の次に花芽が伸び、秋から冬にかけて花が開く。丹精込めて育てた鉢を、窪川支部で毎年開いている展示会に並べる。会場では株の無料配布も行っており、「去年もううた株が咲いたよ」と声を掛けられるのもうれしいという。

会員の年齢層も上がったが「みんな元気で、一鉢でも多く出してくれたら」と吉良さん。「年がいっても続けられる趣味です。目標は、『また今年もきれいな花を咲かすぞ!』と書いちよってください」。



町にはこんな waza も テコンドーで鍛錬! 池田 煙さん(写真右)、宮地 蓮さん 窪川中学校3年

スポーツ武道団体「蹴合術 和蹴会」の須崎道場で、テコンドーの練習に励んできた。動きのかっこよさが魅力で、「きれいに技が決まった時が楽しい」「メンタルも鍛えられました」と2人。池田さんの得意技は「カウンター」、宮地さんは「上段蹴り」という。

こだわりの「技」できりりと光る四万十町の人々を紹介します。
ちょいwaza!!は随時募集中!▶



窪川高校新文化祭

11月22日(土)に開催され、多くの方にご来場いただきました。出店事業者様、地域の皆様には多大なるご協力をいただき、心より感謝いたします。四万十町内の高校として、今後も地域を盛り上げられるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。



高知県立窪川高等学校

Kochi Prefectural Kubokawa High School
〒786-0012 高知県高岡郡四万十町北蓼平町6-1
TEL(0880)22-1215-22-1216
E-mail:320118@ken.pref.kochi.lg.jp



インスタグラムで新文化祭の準備から開催までの様子を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

このコーナーでは、県立窪川高校、県立四万十高校、町営塾「じゅうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介します。